**ハンドマイク街頭演説原稿例　　新型コロナ対策**

二〇二二年一月十八日　日本共産党埼玉県委員会・作成

※数字や行政の対策は日々変化します。最新の動向を踏まえて適宜修正してください※

ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、新型コロナウイルス感染症がまた拡大し、第６波とも呼ばれる事態になっています。この１週間の新規感染者数は全国で十万人を超え、埼玉では１日の新規感染者数が千人を超える日が続いています。日本共産党は、迅速で安全なワクチン接種を進めること、国の責任でＰＣＲ検査をいつでも、誰でも、無料で行うこと、保健所や医療機関への緊急の支援を行うことを、強く求めています。昨年の第５波の時には、全国で二百人以上の方が、自宅で命を落とされました。このような痛ましい事態を絶対に繰り返さない責任が、国にはあるのではないでしょうか。国民の健康と命を守る責任を国に果たさせるため、日本共産党は引き続き全力で取り組んでまいります。

　さてみなさん、岸田首相は１７日の国会での施政方針演説で、日本は「主要七カ国（Ｇ７）で最も厳しい水準の水際対策」を取ったと胸を張りました。ところが、在日米軍基地の中で感染者の集団（クラスター）が発生し、そこから周辺地域に感染がもれ出してしまいました。日米地位協定のため、米軍関係者の検疫に日本側が関与できず、米軍任せになっていたことが、水際対策に大穴をあける結果になったことは、明らかではないでしょうか。アメリカ軍が駐留している他の国では、ここまで米軍任せにはなっていません。この機会に、日米地位協定を抜本的に見直すことを、日本共産党は強く求めます。

　ところでみなさん、今拡大している変異株、オミクロン株は今までのものと違う性格をもち、まだ正体がわかっていない点が多くあります。重症化しにくいと言われていますが、一方で感染するスピードがとても速く、急速な感染拡大を招いています。新型コロナを季節性インフルエンザと同じ扱いにするという議論がありますが、まだオミクロン株の正体をつかみきれていない現状では、あまりに乱暴で危険な議論ではないでしょうか。日本共産党は、科学的な知見と現場の声をしっかり受け止め、そこから何が必要かを考えて、提案してまいります。

　みなさん、今回の第６波については、政府の責任を問わないわけにはいきません。昨年秋以降のコロナ感染が落ち着いていた時期に、政府は３回目のワクチン接種やＰＣＲ検査の拡充、医療機関や保健所の体制強化などにしっかり取り組みませんでした。その結果、またも後手後手の対応になってしまっています。日本共産党は、国民の健康と命を守る責任をしっかり果たすよう、重ねて政府に求めていきます。

　日本共産党へのご支援を重ねてお願いするとともに、スクープ連発で広く注目をあつめている「しんぶん赤旗」を、この機会にぜひご購読いただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）